

# 環境経営レポート



**2025年版**

(2024年12月～2025年11月)

作成：2026年2月4日

環境活動レポート		株式会社 カワマタ・テクノス	
標題	I 事業活動の概要	2025年度版	頁 2/10

# 株式会社 カワマタ・テクノス

## 目次

- I 事業活動の概要
- II エコアクション21 対象範囲
- III 環境経営方針
- IV 環境経営目標
- V 主要な環境経営計画の内容
- VI 実績と評価
- VII 環境経営の取組み結果の評価
- VIII 次年度の環境経営計画の内容
- IX 環境関連法規への違反、訴訟等の有無
- X 代表者による全体評価と見直しの結果

## I 事業活動の概要

- 事業所名  
株式会社 カワマタ・テクノス
- 代表取締役  
川又 重雄
- 所在地  
〒300-2401 茨城県つくばみらい市台 1056-1
- 環境管理責任者  
川又 祐貴
- 実務担当者  
中川 勇一郎（事務局）  
植山 清貴（事務局）
- 連絡先  
[電 話]0297-52-6195  
[FAX]0297-52-6197
- 事業内容  
ゴム及びプラスチック金型の設計・製造  
ゴム成形品(工業用・光学用・医療用・OA用・玩具用)の製造
- 事業の規模  
資本金 1000万円  
社員数 34名  
事業所数 1ヶ所（延べ床面積 702.1㎡）  
設立 1999年11月  
売上高 71147万円（2025年度）  
主要製品生産量 161t（2025年度）
- その他  
ISO9001 取得済み（2005年2月25日）



## II エコアクション21 対象範囲

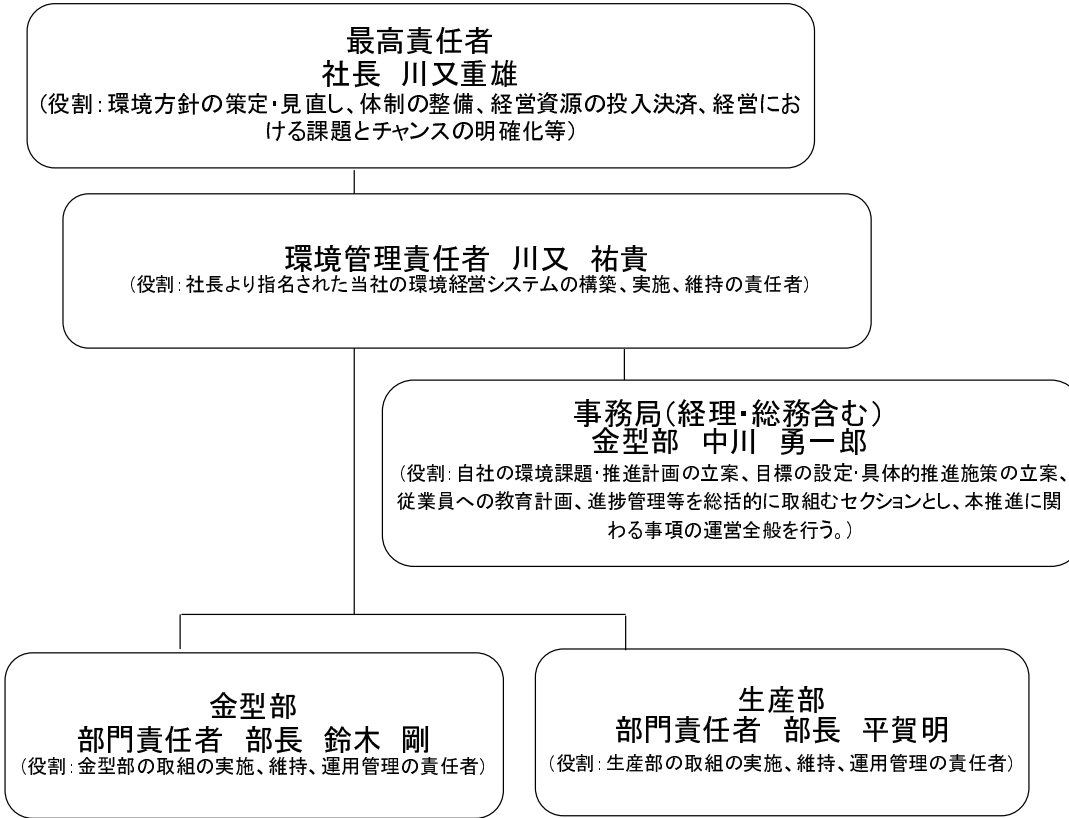
（株）カワマタ・テクノスにおける全組織・全活動を対象とする。



## 環境マネジメントシステム組織図

作成:2021/3/3

改訂:2024/12/26



企業活動	各担当者名
電力・ガリン・軽油・灯油・LPG担当者	金型部 川又(政)・北野
	生産部 平賀部長
廃棄物担当者(ゴム・バリ)	生産部 平賀部長
廃棄物担当者(廃油)	金型部 山口常務
総水使用量担当者	生産部 郡係長
コピー用紙担当者	生産部 平賀部長
	金型部 宮部次長
	事務所 佐藤

緊急時社内消防団	
団長	金型部 川又(政)
副団長	生産部 平賀部長
団員	金型部 鈴木俊也課長
	生産部 長塚

最高責任者

川又 重雄  
2024/4/1

### Ⅲ 環境経営方針

## 基本理念

株式会社カワマタ・テクノスは、臆せず新たなる領域への一步を踏み出し、極め、次の挑戦につなげるとともに、環境保全は我々地球市民に課せられた使命と認識し、これを事業活動の重要な柱の一つと捉え、自ら責任を持ち、全社を上げて取り組みます。

## 行動指針

主要な業務活動である金型製作から各種ゴム成型等のプロセスにおいて、環境への負荷を与えていることを認識し、継続的にその低減又は管理に努めます。

1. 環境経営システムを構築して運用・管理し、継続的改善を推進します。
2. 事業活動に伴う環境負荷低減のため、以下の内容を重点に取り組みます。
  - (1) 経営における課題とチャンスから、本来業務に関する環境経営目標を設定し、環境への負荷の低減を図ります。  
(予算達成、環境設計、生産性向上、品質向上、等)
  - (2) 環境への負荷と環境への取組の状況から、環境目標を設定し、環境への負荷の低減を図ります。  
(二酸化炭素排出、廃棄物排出、水使用、化学物質使用、等)
3. 事業活動に適用される環境関連法規などを遵守します。
4. 地域環境に配慮した企業活動を行うと共に、地域社会との円滑なコミュニケーションを図ります。

株式会社カワマタ・テクノス

代表取締役社長 川又 重雄

制定日 2018年11月12日

改訂日 2019年12月25日

#### IV 環境経営目標

##### (1) 目標

① 当社としては、次の目標を掲げて環境活動に取り組む。

(年度：12月1日初め～翌年11月末日締め)

取組項目	単位	実績	目標								
		2024年度	2025年度		2026年度		2027年度		2028年度		
CO <sub>2</sub> 排出量の削減 (LPG・灯油分含む)	Kg-CO <sub>2</sub>	683,713	676,876	1%	670,039	2%	663,202	3%	656,364	4%	
CO <sub>2</sub> 削減として	電気使用量の削減	kWh	1,464,541	1,449,896	1%	1,435,250	2%	1,420,605	3%	1,405,959	4%
	ガソリン使用量の削減	リットル	7562	7,486	1%	7,411	2%	7,335	3%	7,260	4%
	軽油使用量の削減	リットル	1,594	1,578	1%	1,562	2%	1,546	3%	1,530	4%
廃棄物排出量 (ゴムバリ) 発生率の削減として	ゴムバリ発生率 (ゴム不良分含む)	%	20.5	20.3	1%	20.1	2%	19.9	3%	19.7	4%
	コピー用紙の削減	kg	242	240	1%	237	2%	235	3%	232	4%
	水使用量の削減	リットル	3,359	3,325.4	1%	3,291.8	2%	3,258.2	3%	3,224.6	4%
(課題とチャンスより)	電気使用量削減の方策実行 (2020年はLED照明への交換)	件	0.0	1		1		1		1	
自社による生産・販売・提供する製品		—	下記参照								

※CO<sub>2</sub> 排出量算定には、R2 東京電力の CO<sub>2</sub> 係数 (0.452kg-CO<sub>2</sub>/kWh) を使用。

\*2025 年度削減目標率は、2023 年度比によるもの。(2023 年度削減目標率は、2022 年度比により決定)

\*決算 11/30 締め of データにより、毎年 1 月に新年度の計画を策定する。必要に応じ期の半ばでも改訂出来る。

\*化学物質量の削減については、顧客からの指示により使用量が決まる為、当社での決定権は無い。その為、使用量の把握は行いつつ適正な管理を行なう。

\*「自社による生産・販売・提供する製品」については、「ゴムバリ発生率の削減」と「電気使用量の削減」にて対応している。

\*昨年度の負荷自己チェックや取組状況を踏まえ、以上の目標とした。

\*ゴム製品不良率は、4000/4100/02810/02820/02830/02460 の主要 6 製品分を算出。

\*ゴムバリは「生地購入重量-産廃排出重量」で算出している為、ゴム製品不良率 (個数ベース) の除算が困難。従って不良率はゴムバリ削減の達成手段として数値で管理する。

## V 主要な環境経営計画の内容

### (1) 目標を達成するための取組み

- ① CO<sub>2</sub>排出量の削減
  - 電気使用量の削減
    - ・ 使用していない部屋の消灯
    - ・ 未使用機械の電源断
  - ガソリン使用量の削減
    - ・ 急発進、急加速を控える
  - 軽油使用量の削減
    - ・ 急発進、急加速を控える
- ② 水道使用量の削減
  - ・ 水道を流しっ放しにしない
- ③ コピー用紙使用量の削減
  - ・ 使用済みコピー用紙の裏面の利用
  - ・ コピー機使用後に設定のクリアー  
(拡大等の設定がそのままになり、次に使用する人がコピーミスしないように)
- ④ ゴムバリ発生率の削減
  - ・ ゴム製品不良率の低減
  - ・ ゴム生地使用量の調整(不良率に影響がない程度)
- ⑤ 化学物質使用量の削減
  - ・ 化学物質の管理(P R T R法に関わる物質の使用量の把握)
- ⑥ 自社による生産・販売・提供する製品
  - ・ 上記①・④にて対応

### (2) その他の取組み

- ① ゴム成形部門における光学関係成形品については、別紙手順書により環境使用禁止物質(RoHS等)の不使用に努める。
- ② 地域ボランティアへの参加・会社周辺のゴミ拾い
  - ・ ボランティア活動がどのようなものがあるかを調べ、そこに参加する。
  - ・ 会社周辺のゴミ拾いを行なう。
- ③ 灯油使用量及びLPG使用量の削減に努める。
- ④ グリーン購入
  - ・ グリーン購入を心がける

## VI 実績と評価（運用期間：2023年12月～2024年11月）

取組項目	単位	2024年度 実績	2025年度 目標	2025年度 結果	前年度比較 削減率	
CO <sub>2</sub> 排出量の削減 (2013年の調整後)	kg-CO <sub>2</sub>	683,713	676,876	701,345	-2.58%	
CO <sub>2</sub> 排出量として	電気使用量削減	kWh	1,464,541	1,449,896	1,505,807	-2.82%
	ガソリン使用量削減	L	7562	7,486	6848	9.44%
	軽油使用量削減	L	1,594	1,578	1,837	-15.24%
	灯油使用量削減	L	696	—	866	-24.43%
	LPG使用量削減	m <sup>3</sup>	477	—	575	—
廃棄物排出量（ゴムバリ）	%	20.5	20.3	20.3	0.98%	
コピー用紙使用量の削減	kg	242	240	236	2.48%	
水使用量の削減	m <sup>3</sup>	3,359	3325.41	3,319	1.19%	
自社による 生産・販売・提供する製品	—	電気使用量削減、 工場内発生率削減 にて対応	電気使用量削減、 工場内発生率削減 にて対応	電気使用量削減、 工場内発生率削減 にて対応	電気使用量削減、 工場内発生率削減 にて対応	

※CO<sub>2</sub>排出量算定には、R2 東京電力のCO<sub>2</sub>係数（0.452kg-CO<sub>2</sub>/kWh）を使用。

## VII 環境経営の取組み結果の評価

### (1) 当社の環境への負荷の低減・管理・取組みへの評価

- 灯油の使用量が昨年と比べ大幅な上昇を見せた。パートが増えて灯油を使わなければいけない量が増えたため仕方ないところもあるがその中でも軽減できるよう、使用者に注意するよう指示をした。
- 会社周辺のゴミ拾いを実施した。

### (2) 環境マネジメントシステム導入の評価

- 法規制や顧客規制、環境への配慮などに関して、全社員の意識が向上した。
- 各社員の担当する作業の結果と、環境への影響について考えるようになった。
- 各社員の電気の節約をより一層心がけるようになった。

## Ⅷ 次年度の環境経営計画の内容

## (1) 目標を達成するための取組み

- ① CO<sub>2</sub> 排出量の削減
  - 電気使用量の削減
    - ・ 使用していない部屋の消灯
    - ・ 未使用機械の電源断
  - ガソリン使用量の削減
    - ・ 急発進・急加速を控える
  - 軽油使用量の削減
    - ・ 急発進・急加速を控える
- ② 水道使用量の削減
  - ・ 水道を流しっ放しにしない
- ③ コピー用紙使用量の削減
  - ・ 使用済みコピー用紙の裏面の利用
  - ・ コピー機使用後に設定のクリアー  
(拡大等の設定がそのままになり、次に使用する人がコピーミスしないように)
- ④ ゴムバリ発生率の削減
  - ・ ゴム製品不良率の低減
  - ・ ゴム生地使用量の調整 (不良率に影響がない程度)
- ⑤ 化学物質使用量の削減
  - ・ 化学物質の適正管理 (P R T R法に関わる物質の使用量の把握)
- ⑥ 自社による生産・販売・提供する製品
  - ・ 上記①・④にて対応

## (2) その他の取組み

- ① ゴム成形部門における光学関係成形品については、別紙手順書により環境使用禁止物質 (RoHS 等) の不使用を徹底する。
- ② 地域ボランティアへの参加・会社周辺のゴミ拾い
  - ・ ボランティア活動がどのようなものがあるかを調べ、そこに参加する。
  - ・ 会社周辺のゴミ拾いを行なう。
  - ・ 灯油使用量及び LPG 使用量の維持・低減に努める。

Ⅸ 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果  
並びに違反、訴訟等の有無

(1) 適用される主な環境関連法規

法規制・基準	順守内容
廃棄物処理法	ゴムバリ・廃油が該当し、法に則り処理を行ない、マニユフェストを管理・報告する。
騒音・振動規制法	エアコンプレッサー・合成樹脂用射出成型機が該当する。設置届出提出後、台数追加の為、変更届提出済み。
浄化槽法	設置届出を行ない、法定検査を実施する。
顧客環境要求基準	ゴム成型品において、顧客基準による環境負荷物質を使用しない。
フロン排出抑制法	法に則り、フロン使用機器の管理を行ない、使用・廃棄等を適切に行なう。
毒劇法	盗難、紛失、飛散、漏れ、流出、地下浸透、防止処置他の物との区別明確化、食品物容器の使用禁止。 表示（医薬用外、劇物(白地に赤色)）

(2) 違反、訴訟等

環境関連法規への違反は無く、関係当局より違反等の指摘もありませんでした。  
また、訴訟についてもありませんでした。

以上

Ⅹ 代表者による全体評価と見直しの結果

評価	環境経営システムが有効に機能しているか	環境活動は社内で継続実施されてきている。昨今の業界全体の発注量減退が続いているが、会社としての活動は昨年と変わらず好況で環境負荷の数値が上がってきている。しかし、指標にもよるが環境負荷の伸びは抑えられていることから、一定の効果はあるものとする。					
	環境への取り組みは適切に実施されているか	EA21へ取り組むことにより、以前より環境へ配慮された行動が見受けられるようになってきた。今後も継続し、環境への理解を深めていきたい。					
指示	項目	環境経営方針	環境経営目標	環境経営計画	実施体制	その他システム全般	
	要否	<input type="checkbox"/> 要 <input checked="" type="checkbox"/> 否	<input type="checkbox"/> 要 <input checked="" type="checkbox"/> 否	<input type="checkbox"/> 要 <input checked="" type="checkbox"/> 否	<input type="checkbox"/> 要 <input checked="" type="checkbox"/> 否	<input type="checkbox"/> 要 <input checked="" type="checkbox"/> 否	
	指示内容						
	総評等	昨年に引き続き、現況としての見直しの必要性はさほどでない。業界の活発化等外的環境負荷増加要因があったとしても、社内での環境活動によりその影響を少なくする様、今後も引き続き改善可能な部分を見つけ向上させていく事。業界動向として生産量の減少が見込まれているが、環境への配慮を忘れず、業績維持に務めてもらいたい。環境的負荷を低減する事は、多くの場合経営コストの低減に繋がる為、景気低迷への対策としても有効になるので、これからもしっかり取り組んでほしい。					